

草勢強く、小葉で葉柄・節間が短い、密植・早出し用  
雌花多く、着果が安定した早生豊産種

# よしみ

## 特性と栽培方法



第1図 標準作型

地域	月	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
九州 (西南暖地)	○		♀	●		○				○	♀	●		○
	○		♀	●		○				○	♀	●		○
関西 東海 関東平地	○			♀	●		○							
	○			♀	●		○							
高冷地 東北 北海道	○				♀	●		○						
	○				♀	●		○						

○ 播種   ♀ 定植   ● 交配   ○ 収穫

公益財団法人 園芸植物育種研究所

〒270-2221 千葉県松戸市紙敷 2-5-1 TEL.047-387-3827 FAX.047-386-1455

# よしみ

〈特性と栽培方法〉

## 育成経過

みやこの品質と食味を備え、より黒皮で多収性の品種を目標に育成した。近成芳香の固定系で、早生・灰白皮の肉質のよい系統と、黒皮系の大玉で雌花が多く着果の安定した系統とのF<sub>1</sub>が、みやこの収量面での欠点を補い、食味においても早い栽培では同等であるので、1993年に命名発表した。

## 品種特性

- 果実はみやこより黒皮、腰高の中果(1.5~2.5kg)で果揃いがよく、早生多収である。
- 果肉は厚く、粉質で品質も優れ、早い栽培で特性を発揮する。
- 雌花も多く着果もよいので、草勢を見ながら適節位に着果させることができる。
- 草勢は強く、小葉で葉柄・節間短く、密植栽培に向く。また、風害にも強い。
- 密植栽培に向き、着果節位は15~20節、収穫は1蔓1果とする。着果力が強く1蔓2~3果着果が多く見られるが、この場合は熟期が遅れ、品質的にも劣る。
- トンネル・ハウス栽培では、内部の混雑感がなく、整枝・芽かき・交配などの作業が容易である。
- 収穫適期は開花後40~45日である。

## 栽培の要点

■**作型** 関東以西ではハウス・トンネルの早出し栽培に適し、北海道・東北・高冷地では収穫期が高夜温とならない時期の栽培に向く。作型は第1図を参考にする。

■**播種** 発芽床は過湿にならないように注意する。覆土は1cmくらいで、強めに鎮圧する。発芽適温は25~28℃、発芽したら20℃とし、翌日さらに15℃にする。(第2図参照)

■**育苗・定植** 播種後7~8日目にポット(12cm)に鉢上げする。育苗床はあらかじめ用意し、散水して床温を20℃くらいに上げておく。2~3日で活着したら地温は夜10~12℃、気温は昼18~20℃、夜8~10℃を目標に管理する。

育苗中の高温多湿は雌花の着生を少なくし苗の質を悪くするので、上記のような低温で管理し、灌水も控え目にして硬い苗を作る。

育苗日数は、早い栽培で35日、普通30日、抑制で20~25日くらいがよい。

定植は、ハウス・トンネルの早出し栽培では活着・初期生育をよくするため本圃を早めに準備し、深さ20cmの地温が最低15~18℃に上昇するのを待って行う。

### ■標準施肥量(成分量kg/10a)

N	12~15kg
P	20~25kg
K	15~20kg
Ca	60kg
完熟堆肥	2t

### ■栽植本数(10a当たり)

1本仕立て	畦間 2.0m	株間30cm	1600株
2本仕立て	畦間 2.0m	株間60cm	800株

■**整枝** 密植栽培の親蔓1本仕立てを基本とするが、子蔓2~3本仕立ても可能である。いずれも蔓間は30cmで1蔓1果収穫が品質の安定向上につながる。

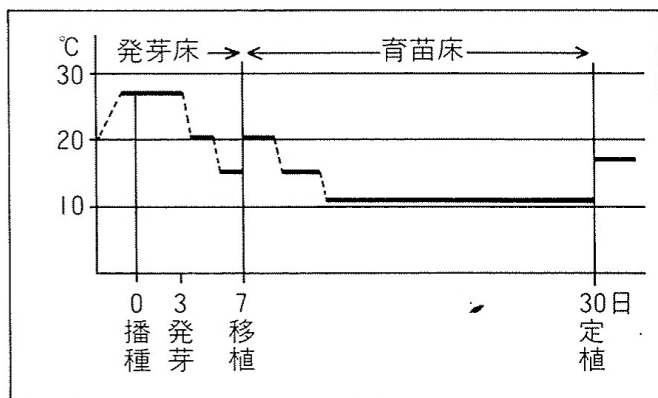
側枝は1番果が着果するまでは随時摘除するが、着果後は放任でよい。

■**交配・着果** 交配はトンネル内の早い時期は人工交配とし、午前10時前には終わるようにする。ホルモン着果は行わない。

着果節位は草勢によって異なるが、強い株で10節、普通は15節、弱い株で18~20節がよい。これらはいずれも株元から1.2mくらいの所になる。

■**収穫** 早い栽培で45日、普通のトンネル栽培で40日が収穫適期である。35日で果梗にひび割れかでき、40日過ぎると全体がコルク化するので目安となる。

■**病虫害対策** うどんこ病、えき病やアブラムシ等の病虫害の予防・防除は、他品種と同様に早めの対応が必要である。



第2図 発芽床と育苗床の床温管理(夜間最低床温)